

# 荒木一郎教授 経歴・研究業績

生年月日：1959年3月5日生

## 経 歴

1. 学 歴：1978年3月 淳心学院高等学校卒業  
1978年4月 東京大学教養学部文科一類入学  
1983年3月 東京大学法学部第1類（私法コース）卒業  
1983年4月 通商産業省入省  
1988年12月 米国カリフォルニア大学バークレー校法科大学院修了（LL.M）  
1994年3月 埼玉大学大学院政策科学研究科修了（政策科学修士）  
1995年7月 世界貿易機関（WTO）法務官  
1998年7月 通商産業省に復帰、通商政策局公正貿易推進室長  
2001年7月 独立行政法人経済産業研究所研究調整ディレクター  
2003年7月 横浜国立大学助教授  
2005年4月 横浜国立大学教授

（補足）WTO 勤務時代の経験に基づいて研究活動を続けており、その実績から WTO の紛争解決手続においてパネリストに2度選任された。最初は、インドネシアを申立国とする米国クロープ入り紙巻たばこ事件（DS406）であり、二度目はウクライナを申立国とするロシア通過貨物事件（DS512）である。後者の報告書は、WTO 史上初めて安全保障例外に関するパネル判断を示したもので、その後のパネル案件においても重要な先例として参照されている。国際的な学会活動としては、2023年からアジア国際法学会（Asian Society of International Law）の理事兼会計主任（Treasurer）を務めている。

## 研究業績

- 1) *The Future of the Multilateral Trading System: East Asian Perspectives*, Cameron May 2009年 (ISBN:190501780)
- 2) 『日米 FTA 戦略』(編集) ダイアモンド社 2007年4月 (ISBN:4478250081)
- 3) 『WTO 紛争解決手続における履行制度』三省堂 2005年11月 (ISBN:4385322546)
- 4) 『WTO 体制下のセーフガード』東洋経済新報社 2004年7月 (ISBN:4492443118)
- 5) 『東アジア経済統合への道』渡辺利夫(編集)勁草書房 2004年2月 (ISBN:4326502479)
- 6) 『WTO ハンドブッカー—新ラウンドの課題と展望』渡辺頼純(著)日本貿易振興機構 2003年9月 (ISBN:4822409805)
- 7) 『転換期の WTO』小寺彰(著)東洋経済新報社 2003年3月 (ISBN:4492443002)

## 論文

- 1) 「WTO の停滞と日本の対応」国際問題 (678) 15-23 2019年1月
- 2) 「多角的貿易体制と中国」日中経協ジャーナル (297) 6-9 2018年10月
- 3) 「WTO のルール・メイキング：過去20年間の活動を振り返って (WTO 成立20周年：ルール・メイキングと紛争解決の観点から)」日本国際経済法学会年報 25 11-22 2016年
- 4) 「多角的貿易体制は維持できるか」国際問題 (601) 23-33 2011年5月
- 5) The Evolution of Japan's Aggressive Legalism, *The World Economy* 29(6) 783-803 2006年6月
- 6) 「東アジアの経済関係における法的制度化の現状」法律時報 77(6) 60-65 2005年6月

- 7) 「カンクン閣僚会議の評価」 ジュリスト (1254) 6-9 2003年10月
- 8) 「グローバリゼーションとGATS」 ジュリスト (1232) 54-60 2002年10月
- 9) 「紛争処理手続における非貿易的関心事項の取扱」 日本国際経済法学会年報(9) 107-119 2000年9月
- 10) 「WTOにおける紛争処理の実際」 貿易と関税 46(9) 20-31 1998年9月